資料４

２０１８年度～２０２０年度

在宅医療サポートセンターの実績報告

南埼玉郡市　在宅医療サポートセンター（蓮田市、白岡市、宮代町）

在宅医療サポートセンター（蓮田市、白岡市、宮代町）について

●設置期間

2018年4月～2021年6月末まで（3年2か月）

●開設時間

平日　9時～17時

（2018年度は9時～16時であったが、2019年4月より開設時間を1時間延長した）

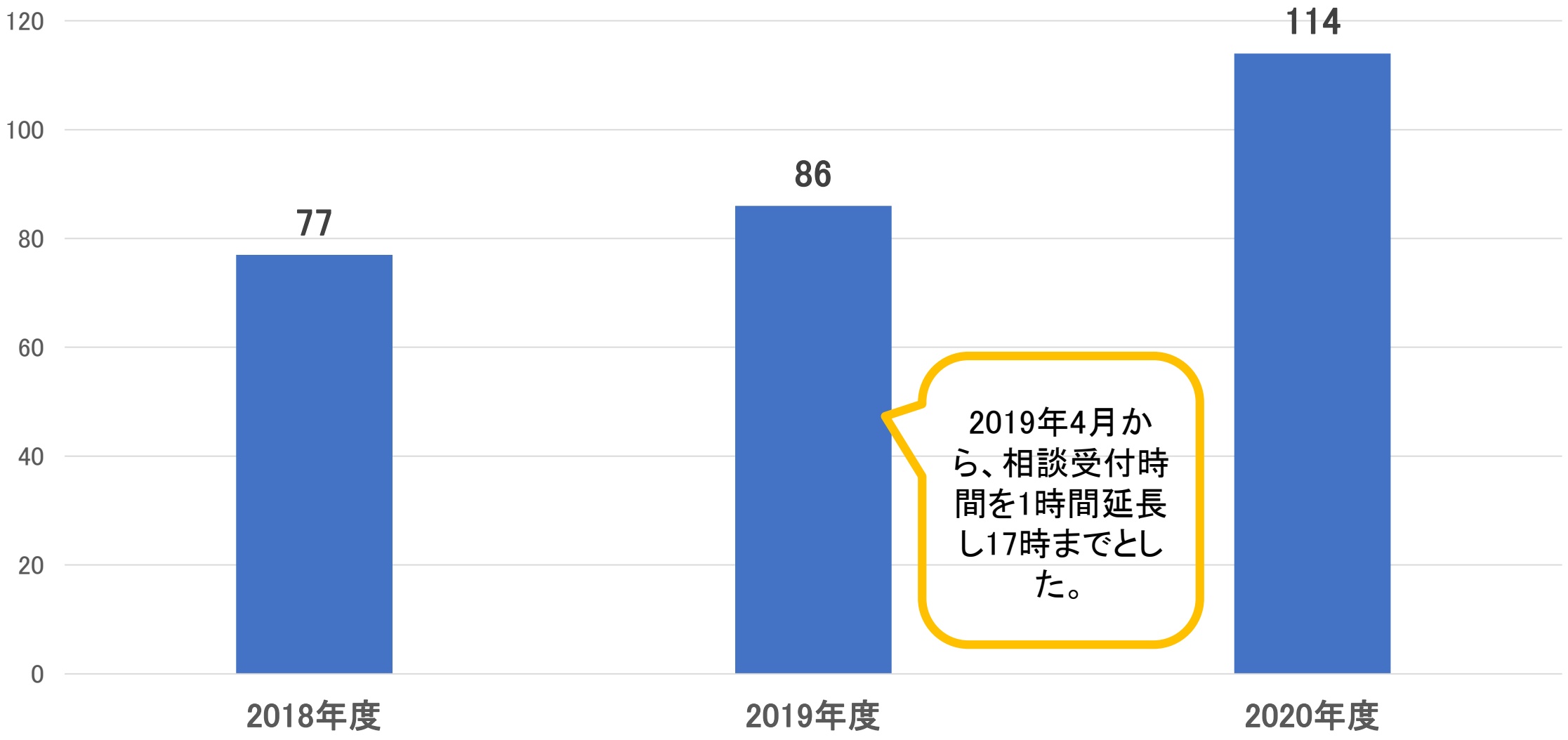
●相談業務

地域の在宅医療・介護に関わる専門職を対象に、在宅療養に関する相談を受けた。
また、市民も対象とした。

●その他の委託業務

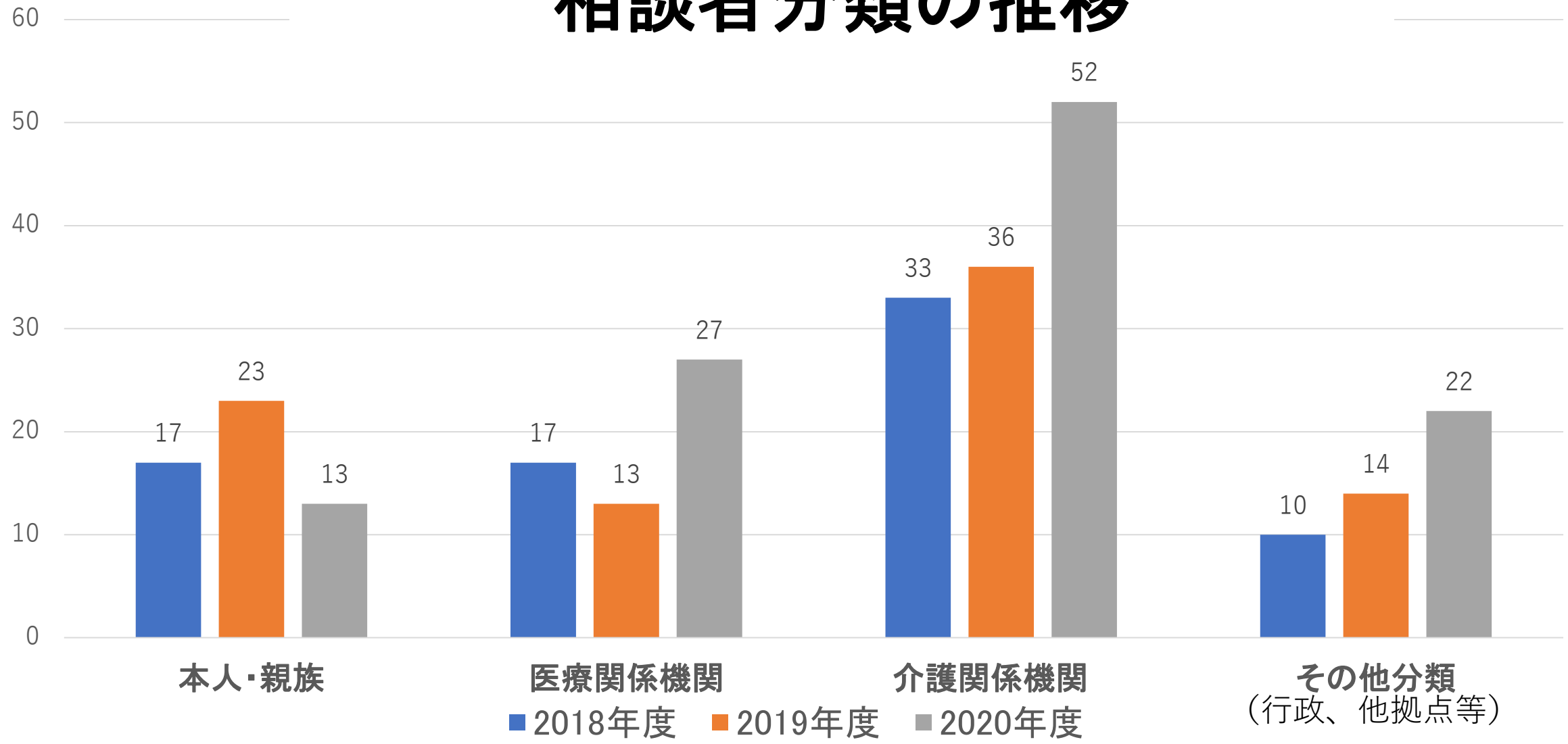
切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進、医療・介護関係者の情報共有の支援、医療介護関係者の研修の協力・支援、地域住民への普及・啓発

相談業務の推移



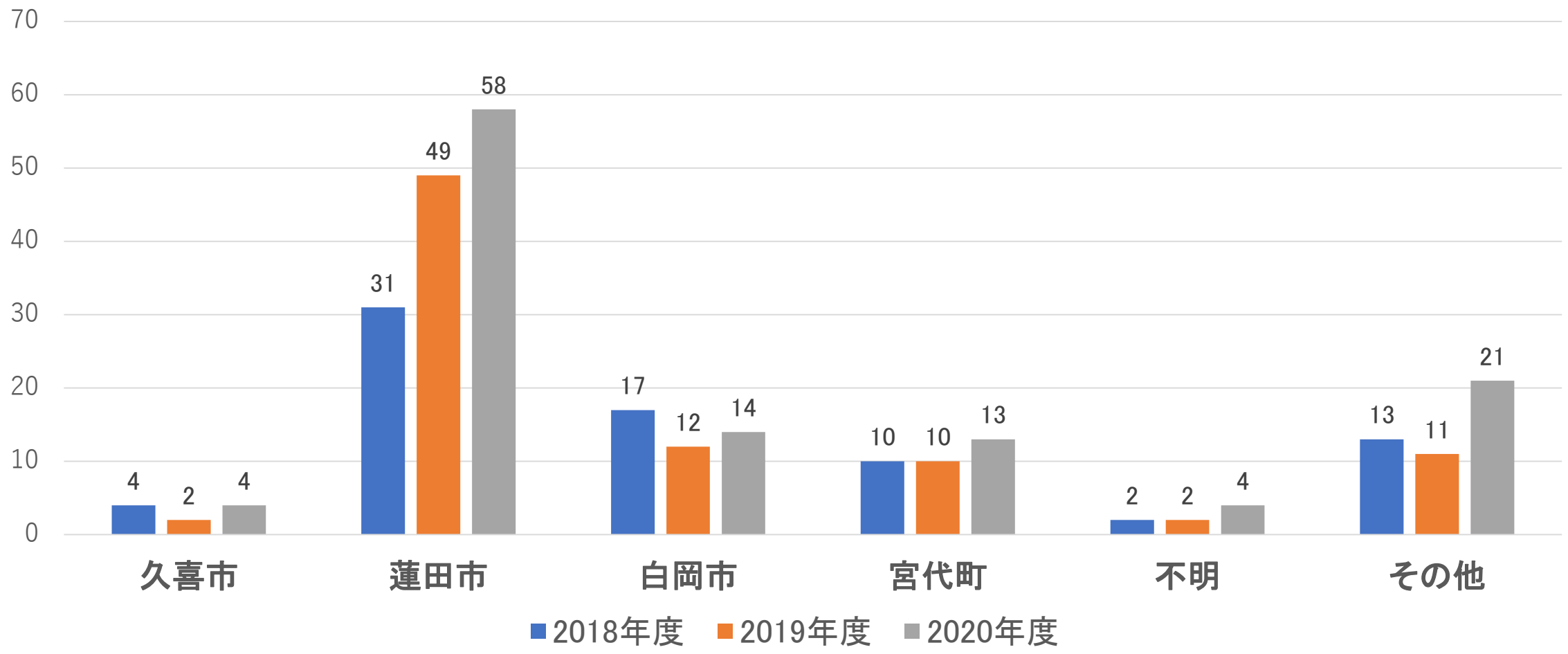
相談件数は、年々増加し、2018年から2020年では、+37件となった。

相談者分類の推移



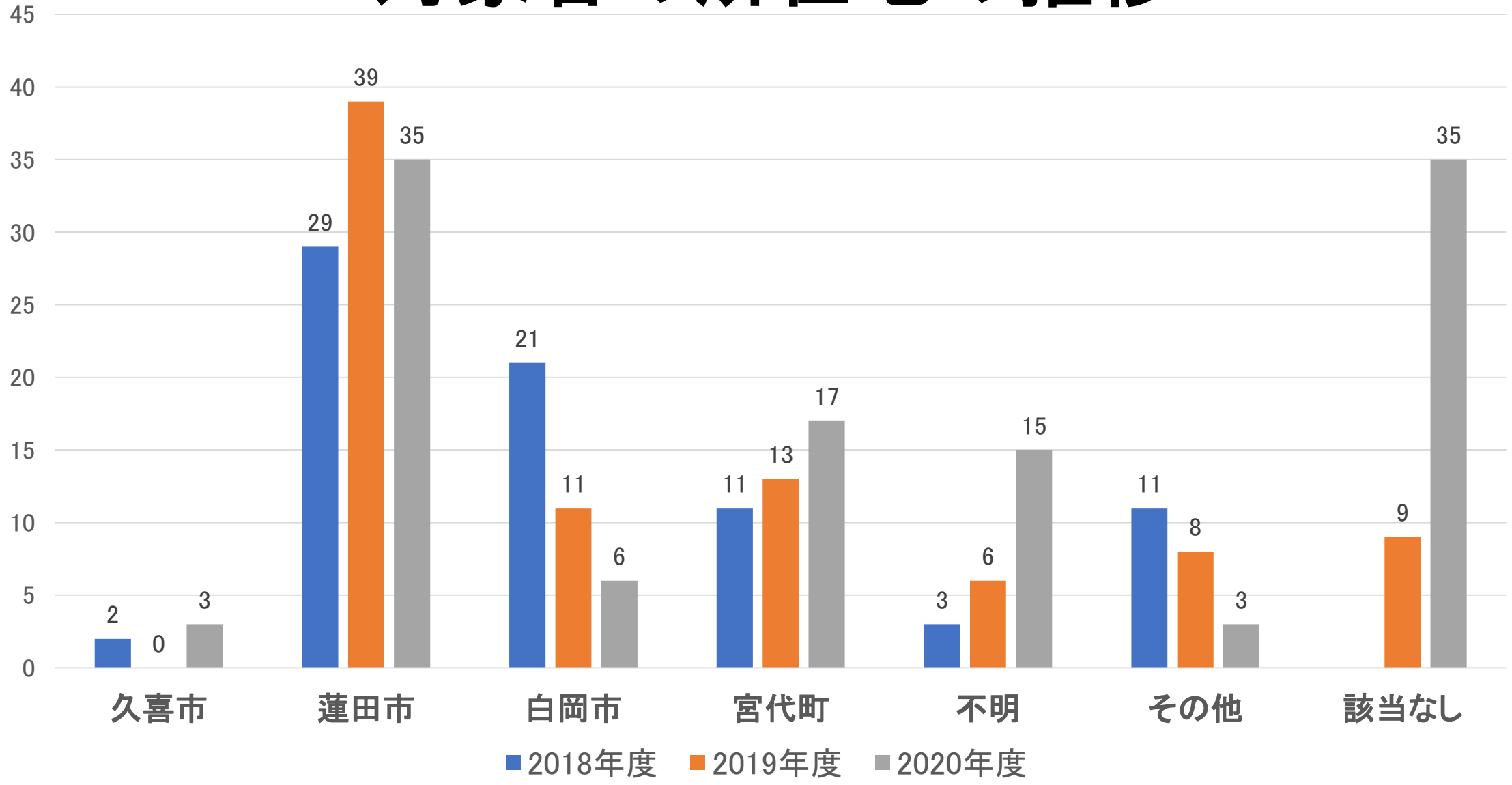
●本人・親族以外は、2020年度が一番多い結果となった。2020年度に本人・親族からの相談が減った理由としては、コロナ禍により、地域に出ていくことが出来ず、出前講座や健康講話等、市民への周知をする場が減ってしまったことも要因の1つと考えられる。

相談者の所在地の推移



- 「その他」の内訳で多かったものは、県内の医療機関や在宅医療連携拠点であった。
  県外の医療機関（急性期病院やがんセンターなど）からの相談もあった。

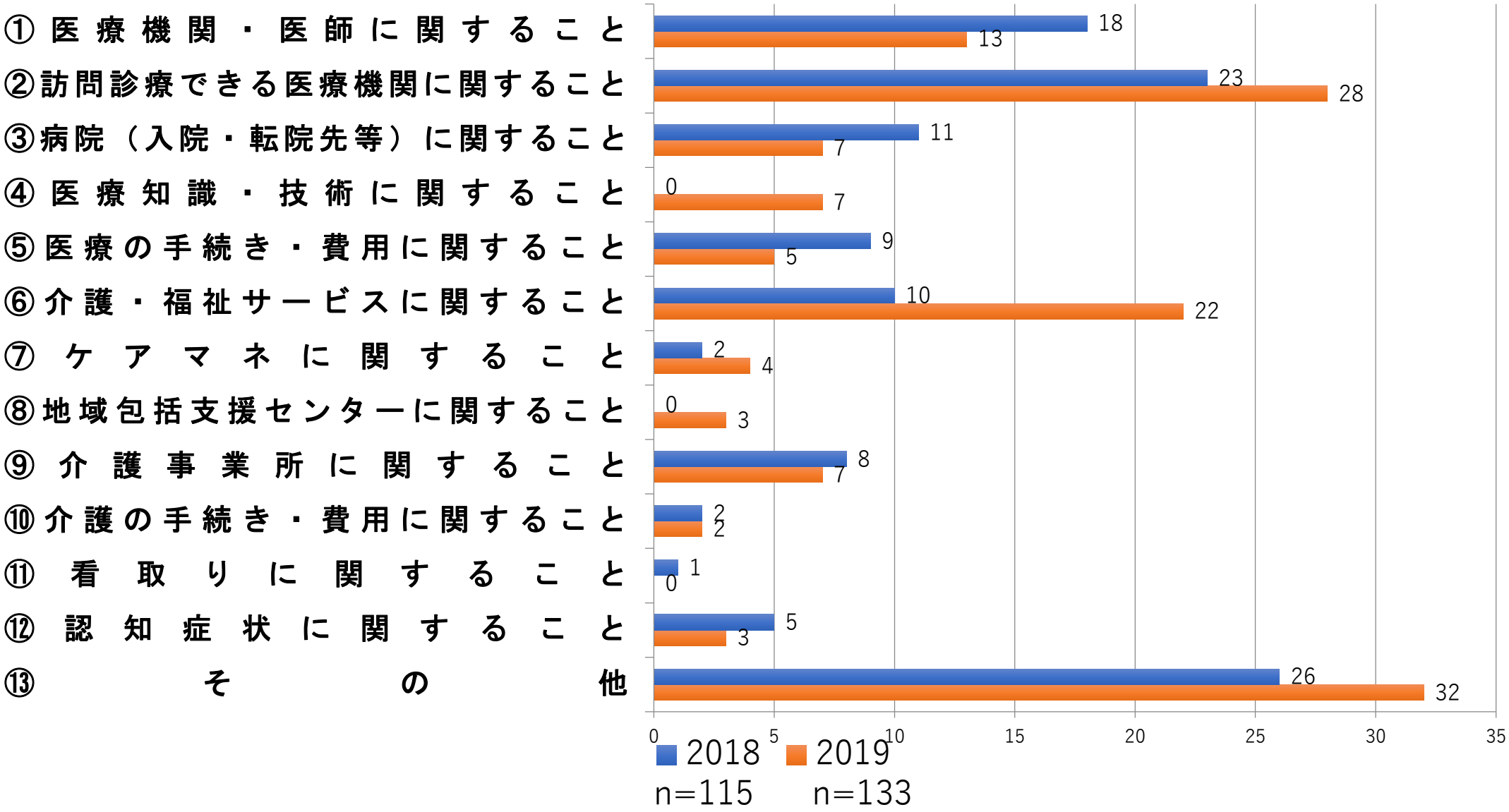
対象者の所在地の推移



●2020年度に「該当なし」が増えた要因としては、Zoomによる勉強会やMCSについての問い合わせなどが多かったこと等が挙げられる。

2018、2019年度

相談内容分類（複数選択可）



⑬　「その他」の内訳

・障害や難病のある方が利用できるサービスに関すること
・受診に関すること（受診拒否、何科を受診したらよいか）
・介護負担
・若年でがんターミナルの方が利用できる在宅療養支援について教えて欲しい
・近隣にある患者会についての問い合わせ
・在宅療養中の医療機器の取得方法について
・精神症状がある方が一時的に入所・入院できるところ

〇窓口担当で情報収集し、資料の作成・情報提供を行った
〇患者会の情報や医療機器の取得方法については、サポートセンターのホームページに掲載した

（ケアマネジャーから）

○高次脳機能障害の患者会や友の会を紹介してほしい

→　近隣で開催している家族交流会の他、失語症や脳卒中友の会について情報提供

○精神症状がある方が、レスパイト目的で一時的に入所（または入院）できるところを教えてほしい

→近隣の精神科のある医療機関や特養（ショートステイ）に問い合わせ

受け入れを検討したいと返答をいただいた医療機関や施設について、情報提供した

（行政から）

○在宅で医療機器を使用する場合、取得方法や助成制度 について知りたい（たん吸引器、ネブライザー、パルスオキシメーターなど）

→ 医療機器取得までの流れや、助成制度についてまとめた資料を作成し、情報提供した

2020年度

相談内容分類（複数選択可）

n=158

（※2020年度より相談分類を変更したため、２０１８，２０１９年度との比較は行わなかった）

・最も多い相談内容は、⑫「その他」であった。
次いで、①「医療機関・医師に関すること」や②「訪問診療できる医療機関に関すること」が多かった。

⑫「その他」の内訳

・MCS（メディカル・ケア・ステーション）の登録やグループへの参加方法等に関すること
・サポートセンターが企画したWeb勉強会に関すること（Zoom利用方法など）
・高次脳機能障害の家族会について
・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について分かりやすい市民向けの資料があれば教えてほしい
・ネグレクト（経済的）に関すること
・往診でPCR検査をしてくれる医療機関を教えてほしい
・利用者と介護者がともにコロナウイルスの濃厚接触者になり、介護サービスが利用できなくなってしまった場合の支援について
・コロナ禍における介護事業所同士の連携体制について（他地域での取り組みを知りたい）

介護事業所(ケアマネ・訪看等)や医療機関より、新型コロナウイルスに関する相談が複数寄せられた

新型コロナウイルスに関する相談について、対応したこと

〇新型コロナウイルス感染症に関連して業務の現状や困ったことについて聞き取りを行った（管内の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所など数か所）

○フェイスブックやMCSにて、市民や地域の医療・介護関係者に向けて情報発信
・新型コロナウイルス感染症 市民向け感染予防ハンドブック
・電話再診に対応している近隣の医療機関一覧
・（県）ケアラーが新型コロナウイルスに感染して入院した場合に要介護者を支援する施設の開設について

○地域の医療・介護関係者向けに、新型コロナウイルスに関するWeb勉強会を開催
（コロナ禍にあっても多職種同士のつながりを途切れさせないことも目的に・・）

○蓮田市介護支援専門員・訪問看護ステーション連絡会（Web開催）にて、県が取り組んでいる新型コロナウイルス感染症に関連したケアラー支援について情報提供を行った

《その他の委託業務について》

ア．切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

●【退院前カンファレンスのエチケット集】作成（2018年度）

医療機関と訪問看護ステーションとの連携会議において、「退院前カンファレンス」についてグループワークを行い、より良い退院前カンファレンスの実施に向けて、どのようなことに気を付けた方が良いのか意見交換を行った。出された意見をまとめ、【退院前カンファレンスのエチケット集】を作成し、各医療機関へ送付し、ホームページにも掲載した。

イ．医療・介護関係者の情報共有の支援

●【医療機関窓口一覧】の作成（2018年度）

入退院時などの情報共有ツールの調査・研究を行った。医療機関、ケアマネジャー、訪問看護ステーションを対象に聞き取りなどを行う中で、それぞれが現在使用している様式で問題はないと考えていることが分かった。また、「病院の窓口が分かりにくい」「書類の提出先に関する問い合わせ電話が多く、電話対応が負担」との意見が聞かれたため、医師会管内の【医療機関窓口一覧】を作成することとし、①入退院時情報提供書類の提出先②訪問看護指示書の依頼先③外来・入院患者の問い合わせ先について調査し、ホームページに掲載した。（毎年春更新）

《その他の委託業務について》

エ. 医療・介護関係者の研修

●Zoomによる勉強会の実施（2020年度）

コロナ禍で行政主催の研修会を開くことが出来ないため、サポートセンターが企画・運営を行い、勉強会を行った。（計3回、のべ参加人数約75人）
初めての試みのため、広く広報はせず、MCSの掲示板でのみ広報を行った。

オ. 地域住民への普及啓発

●フェイスブックを開設（2018年度）

市民からの相談を受けていくことも考え、市民への広報や情報発信のため、
7月にサポートセンターのフェイスブックページを作成し、取り組み等の投稿行ってきた。

●リーフレットの作成（2018年度）

医師会拠点を中心に【在宅医療・介護のためのヒント集】というリーフレットを作成し、
介護事業所や市民へ配布した。

考察

（みえてきたサポートセンターの役割、今後求められることなど）

《みえてきた役割》

・地域に足りない情報を見つけ、役立つ情報取りまとめ、発信していく役割

→市民や地域の専門職からの相談を通じ、個別的な課題から、地域に足りない情報に気づくきっかけとなった。

（認知症の検査をしてくれる医療機関、患者会・友の会、医療機器の取得方法等）

・在宅医療連携拠点同士との連携を通じた、地域に役立つ情報の収集

→MCS（メディカル・ケア・ステーション）の拠点コーディネーターグループの投稿などを通じて得た情報を、地域の専門職（MCSの地域医療・介護連携掲示版）に向けて発信した。

また、他地域での取り組み等に関する情報を集め、地域の専門職等に対して情報提供を行った。

考察

（みえてきたサポートセンターの役割、今後求められることなど）

《今後求められること》

・引き続き、相談業務で得た情報や対応について分析し、地域の専門職や住民の役に立ちそうな情報の発信を行うこと

・今後、【入退院支援ルール】等、医師会単位で決定、周知などを行うことが多くなると思われる。そのため、管内市町がより同じ方向性で取り組んでいく必要があるため、そのサポートを行うことが求められる。

・行政との連携を通して、それぞれの地域の特性に合わせた支援の検討